

行財政・防災危機管理対策特別委員会 県内・県外行政調査

1 調査日 令和5年7月21日（金）

2 調査の概要

(1) 天ヶ瀬ダム・鹿跳溪谷（京都府宇治市・大津市石山）

近年、頻発する記録的豪雨により、全国各地で河川の氾濫や土砂災害による甚大な被害が発生しており、本県においても、令和4年8月の大雨により高時川が氾濫するなど、毎年のように県民の生命と財産を脅かす災害が発生している。

このことから、本県の治水対策について総合的に調査を行う必要があるが、このためには、本県だけではなく琵琶湖淀川流域全体における治水対策について多面的な調査を行う必要がある。

国土交通省近畿地方整備局は、琵琶湖淀川流域における治水対策を所管し、令和4年度には天ヶ瀬ダムの再開発事業を終了、今後、鹿跳溪谷の改修や大戸川ダムの建設を予定していることから、同局の取組について調査を行った。



(2) 滋賀大学 データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター（彦根市馬場）

現在、国の「AI戦略会議」をはじめ、企業や自治体などにおいて、生成系AIをはじめとするAIの活用に向けた様々な議論が行われており、その活用に向けては、生産性向上とリスク管理の両観点から活用と規制のバランスの取れた対応が求められている。

また、本県においても、今後、業務効率化に向けたAIの活用と課題について方針が整理される予定であり、県庁における業務改革、県民の利便性向上に向けて、AI・データサイエンスの活用は必須である。

このことから、AI・データサイエンスの先端研究の推進・人材育成・社会実装について、企業や自治体と連携した取組を全国に先駆けて実施してきた滋賀大学データサイエンス・AIイノベーション研究推進センターの取組を調査した。

